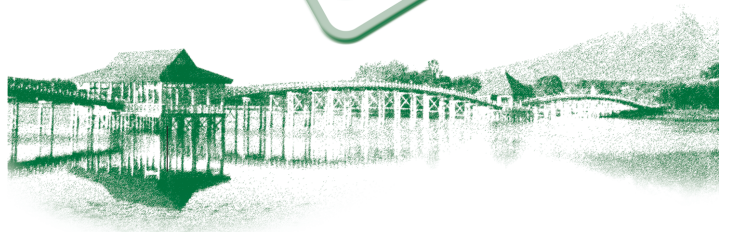


子どもたちの楽しい祭典

11月3日（月）、第21回子どもの祭典（町子ども会育成連絡協議会主催）が鶴遊館を会場に開かれ、町内の子どもたち約210人がイベントや出店を楽しみました。

イベントには、町のジュニアリーダーズクラブ「HIZURU」や県総合社会教育センター主催の「パワフル AOMORI !! 創造塾」のメンバーらがスタッフとして協力。子どもたちは、鶴田町に関するクイズに答える巨大すごろく「つるたクエスト」や豪華賞品が当たるビンゴ大会などのゲームを楽しみました。

また、お昼からは、町内の子ども会の父兄による出店が開かれ、たこやきやチョコバナナ、棒パン焼きなどの趣向を凝らした手作りの食べ物に子どもたちが列を作っていました。



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。



△大きなサイコロを回してクイズに答える「つるたクエスト」

給食に感謝の気持ちを込めて

子どもたちに、学校給食に活用される地元食材への関心や感謝の気持ちを深めてもらおうと、11月4日（火）、水元中央小学校で「ふるさと産品の日」給食交流会が開かれました。

交流会には、町の農家らが協力する学校給食応援隊や学校給食センターの調理員らが参加。木村幸子栄養教諭が給食の調理過程や材料について説明した後、各テーブルに分かれた児童たちが、町内産の野菜が入った豚汁や県産ゴボウのサラダ、八戸産サバのケチャップ煮などを食べ、応援隊や調理員の方々との交流を深めました。

2年生の澁谷柚樹君は、「感謝の気持ちを持ってこれからも給食を食べたい」と話していました。



△感謝の気持ちを込めて給食を食べる児童たち

朝ごはん運動のさらなる推進へ

11月11日（火）、朝ごはん運動推進本部会議が国際交流会館で開かれ、関係者約30人が同運動推進に向けた意見交換をしました。

会議では、町職員が「ごはんを中心とした食生活の改善」や「早寝早起き運動の推進」などの基本方針に沿った運動の取り組みについて、昨年度の実績と今年度の計画を説明。出席者からは、「学校給食へ提供する食材の調達についてさまざまな方法を考えたい」や「食や子どもの成長などについて話し合う場を作り、町民の意見を集約したらどうか」など活発な意見が出されました。

相川町長は「朝ごはん運動の範囲で出来ることを検討していきたい」と話していました。



△朝ごはん運動推進に向けた多くの意見が出されました。



△スタイ（よだれかけ）作りを通して交流するお母さんたち

スタイ作りで子育て交流

町では、小さなお子さんを持つお母さんたちの交流の場として、月に一度、「子育て広場」を鶴遊館で開いています。子育て広場は、子育ての悩みを話し合い、育児に関する情報を交換することで、心のリフレッシュの場にもなっています。

今年度からは、手芸の得意なお母さんたちが先生となって、ハンドメイドの小物作りも行っています。11月20日（木）には、スタイを手作りしながら、子育てについて話し合い、子どもたちと遊ぶことで自由に楽しい時間を過ごしました。

参加した鳴海美雪さんは、「お母さん同士で子育ての話が出来て、子どもたちも楽しく遊べる良い機会です」と話していました。

みどりの会が給食へリンゴ寄贈

町の学校給食で、子どもたちに地元のリンゴを食べてもらおうと、11月14日（金）、町の若手農業後継者団体「みどりの会」（長峰良孝会長）が収穫したばかりのサンふじ29箱（約580kg相当）を町に無償提供しました。

収集場所となった水元りんごセンターには、会員14人がリンゴが入った木箱を持ち寄り、コンテナに詰め替えました。長峰会長は「今年も出来のよいリンゴを提供できた。子どもたちの給食のために、積極的に協力したい」と話していました。

当町では地産地消の取り組みとして、毎年、学校給食の献立にリンゴを取り入れ、昨年度も町の農家から127箱のリンゴが提供されました。



△リンゴが入ったコンテナを積み重ねる会員の皆さん